

今こそ、新たな潮流・新たな労働運動を！

日刊 動労千葉

80.3.7

No.389

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電二三五八八九・（公衆電話）三七二〇七）

「三・二〇年代を闘う全国労働者集会」は、動労千葉をはじめ全国から五七二名の労組活動家が結集して圧倒的な成功を収めた。本号では、特に「労働戦線統一問題と八〇年代の労働運動」について提言された労働運動評論家の高島喜久男氏の発言要旨を掲載します。（抜粋）

われわれは、三・二集会で確認された「四つの基軸（①三里塚を勝利させる労働運動 ②企業防衛主義・排外主義と対決した原則的な生活・権利防衛の闘い ③反動・反革命との対決 ④右翼労働戦線一反対）」と当面する二つの任務（『二期工事阻止・30総決起』と『新たな自前の戦闘的全国潮流の形成』）をがっちり受けとめ、三里塚Ⅱ反合を軸に八〇春闘を力強く推進していく。

3.2「八〇年代を闘う 全国労働者集会」

（労働運動評論家）
高島喜久男氏
の提言から

「8%」に示された既成労働運動の完全な破綻

（略）今日、しばしば話に出されますように、この春闘は、「8%の賃上げ要求」などと言われております。

それだけではない。日本経済新聞記事によれば、「労働行政研究所」というところが東京証券取引所一部上場会社の勤務担当重役と労働組合の委員長と学識経験者の人達、四〇〇名からアンケートを取った結果を発表しています。それによると、「資本家の考えている妥結金額は、6・5%である。一方で労働組合が考えている妥結金額は7%である」といっています。なんと、その「差」たるや、わずか、「0・5%！」というありさまです。多くの労働組合で賃金アンケートも終わらないうちに「妥結金額」までがこんな具合に「きまつて」しまっているのです。労働者がこんな労働組合や、組合指導部を一体信用するでしょうか。

一方で、日共を中心とした「統一懇」の動きがあります。しかし、八〇年代を通して、総評の経済主義に追従し、誤った戦略のもと議会主義とセクト主義を固定化してきたあの日本共産党がどうして新しい労働運動を作り出すことが出来るでしょうか。

私たちは、今こそ、新しい質の労働運動を創らなくてはなりません。

八〇年代を見すえて、原則を守り闘う「点」は必ず勝利する！

新しい質の労働運動を創る主体は、どこにあるのか。ここにこれだけの人達が結集しています。

日本全国から新しい労働運動の但い手が結集しています。これは、日本の労働運動の今日の前進のあかしだと思います。

たしかに、その数は少ない。もはや労働組合とはいえないような「労働組合」が多い中では、まったくの「点」でしかありません。動労千葉をとってみても総評とか、公労協とかいった大所帯の労働運動地図の中の「点」でしかありません。

しかし、重要なことはこの「点」は、「必ず勝利する点」だということです。なぜならば、世界の階級の力関係は、変ってきています。資本主義の矛盾が資本主義そのものをくずしてきています。そのまっただ中に我々の「点」が、しっかりと足を踏まえているからなのです。

三里塚14年の闘いに学び、連帯し、労働運動の真の勝利をきりひらこう！

第三世界の人民が勝利を手に入れるまで、すでに20数年の闘いを闘っております。

三里塚の反対同盟は、国家権力の暴虐に全面対決し14年闘っております。

我々は、ほんとうに勝利を手に入れるまでの相当の長期にわたって、闘う点を守り、原則を守り、新しい労働運動を創っていくかなければなりません。これらの闘いに学び、連帯すること、そうすれば、勝利は、必ず私達の手にあるのです。

私は、その勝利への確信と皆様方の闘いに希望と期待をよせています。その勝利の日に、その時に皆さんは、新しい社会の建設の但い手となるでしょう。

皆様方の闘いとその勝利に期待と希望を寄せて私のあいさつしたいと思います。